

【フロンティアスクール用中間報告】

(鳥取県)

・学校の概要(平成15年4月現在)

鳥取市立遷喬小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	3	9	14
児童数	21	15	22	23	27	26	3	137	

・実践研究の概要

1. 主題

算数科を核とした確かな学力を身につける遷喬っ子の育成

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年生から6年生まで算数で研究を進めている。
(学校として、教科を一つにしぼり、研究を深めていきたいという思いから)

(2) 年次計画

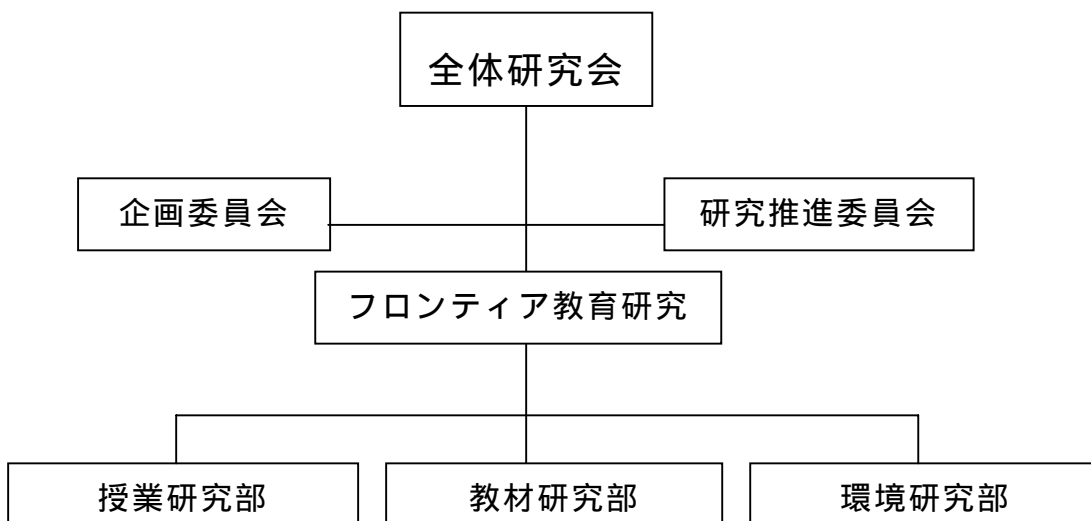
平成14年度	<p>テーマ 算数科を核とした確かな学力を身につける遷喬っ子の育成</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数的活動や小集団等による友だちとの練り合いを充実させることにより、算数的感覚を磨き、共に学習を進めることができるだろう。 ・ふりかえりカード(自己評価)で、今の自分を知ることにより、自力解決しようとする意欲につながるだろう。 ・児童の実態に即して多面的な教材分析を試みると共に、効果的な指導形態や教材教具の開発に努めることで、基礎・基本の習熟を図り、それに基づく発展的な学習へと進めることができるだろう。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・算数科における学びのスタイルの確立 ・魅力ある導入部分の工夫 ・ドリル学習等の教材開発(自作ドリル)
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・学習形態（TT指導・少人数指導）を生かしたきめ細かな指導と教材・教具の開発 ・確かな学力の定着に向けた評価のあり方
--	---

平成15年度	<p>テーマ 算数科を核とした確かな学力を身につける遷喬っ子の育成 仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な算数的活動や小集団等による友だちとの練り合いを充実させることにより、論理的な思考力や直感力を身につけ、共に学習を進めることができるだろう。 ・ふりかえりカード（自己評価）の継続と活用で、今の自分や友だちのよさに気づくことにより、自力解決や集団で解決しようとする意欲につながるだろう。 ・児童の実態に即して多面的な教材分析を試みると共に、効果的な指導形態や教材教具の開発に努めることで、基礎・基本の習熟を図り、それに基づく発展的な学習へと進めることができるであろう。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習形態（TT指導・少人数指導）を生かしたきめ細かな指導と教材・教具の開発 ・練り合い場面の活性化（発問の工夫、言葉かけ、既習経験の応用、ノートの充実、反応の広がりや絞り込み） ・発展的な学習における教材開発 ・チャレンジテスト（月末テスト）の分析と考察及び学力補充 ・計算タイム（チャレンジタイム）の導入 ・算数コーナーの活用 ・基礎学力調査の分析と県診断テストの分析 ・確かな学力に向けた評価のあり方
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 算数科を核とした確かな学力を身につける遷喬っ子の育成 仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちと共に学び合うことを重視し、算数的活動で培った考えを深めたり、広げたりすることで「学ぶ楽しさ」を追求できるだろう。 ・ 指導者側の評価と児童評価とを照らし合わせることによって、評価規準に到達する過程がみえ、評価を指導に生かすことができるだろう。 ・ 児童の実態に即して多面的な教材分析を試みると共に、効果的な指導形態や教材教具の開発に努めることで、基礎・基本の習熟を図り、それに基づく発展的な学習へと進めることができるだろう。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発展的な学習の教材開発と積み上げ ・ チャレンジテスト（月末テスト）の分析と考察及び学力補充 ・ 学習規律表「学びの基本」の活用 ・ 学習形態（TT指導・少人数指導）を生かしたきめ細かな指導と教材・教具の開発 ・ 算数コーナーの活用と計算コーナーの取り組み ・ 練り合い場面の拡がり ・ 問題解決の思考過程を重視したノート指導
--------	--

(3) 研究推進体制



- ・ 学習過程の構築
- ・ ノート指導の充実
- ・ 学習形態の工夫
- ・ 評価と支援のあり方
- ・ 発展的な学習、補充的な学習における教材開発
- ・ チャレンジテストの工夫
- ・ 計算タイム
- ・ 学習環境の整備
- ・ 保護者への啓発活動
- ・ 児童の実態調査、分析

・平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

- ・ 練り合い場面の活性化をめざし、発問や自力解決の場での子ども達への言葉かけを意識して指導にあたったその結果、多様な考え方ができたり、考えに深まりが見られ始めた。
- ・ ノートに線分図や関係図等を書くことによって、自力解決の意欲と既習事項を振り返る習慣がついてきた。
- ・ 少人数指導で習熟度的コースに分けることによって、学習の機会や活躍の場を多く持たせることができた。また、子ども達の満足度が増し、理解も深めることができた。
- ・ 評価一覧表を座席表と共に活用することで、ねらいが明確になり、評価を次時の指導、個に応じた指導ができるようになった。
- ・ 学習の振り返り（感想等）で、自分の学びを振り返ったり、友達のよさに気づけたりできるようになってきている。
- ・ 発展的な教材の開発に心がけたことにより、理解をより広げたり、より深めたりすることができつつある。

2. 今後の課題

- ・ TTや少人数指導の体制で進めていったが、より効果を上げるために、日々の教師間の打ち合わせに多くの時間を要する。
- ・ 少人数指導を習熟度的コースに分けているが、固定化してくることと、じっくりコースでは、なかなか練り合い場面が作りにくいことがある。
- ・ 「学びの基本」を教室に掲示したり、保護者へ配布したりして学習の規律を徹底させていきたい。
- ・ 計算コーナーを設置し、計算の習熟・定着を図っていく。
- ・ 昨年度、本年度の取り組みを再確認し、見直して確実に実施していく。

・ 学力把握のための学校の取組について

- ・ 昨年度の学力調査の分析結果から
- ・ 鳥取県診断テストの実施と分析（平成15年1月実施）
- ・ チャレンジテスト（月末テスト）の分析

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・中学校区が連携して、お互いの研究授業に参加し、情報交換をより深め、少人数指導法の工夫・改善に一層努める。
- ・研究のテーマに向けての教育実践を研究集録としてまとめ、その反省と考察を次年度の教育活動に生かしていく。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 14年度からの継続校
- 【学校規模】 7～12学級
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
- 【研究教科】 算数
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有